2023（令和５）年度　学校推薦型選抜入学試験問題

基礎学力テスト

（時間　６０分）

受験上の注意事項

【1】 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。

【2】 受験票及び机上の受験番号シールに印刷された受験番号及び氏名が間違っていれば、速やかに監督者に知らせなさい。

【3】 この問題冊子は、本文が34ページあります。
問題冊子の印刷が不鮮明であったり、ページが落丁・乱丁していたり、解答用紙に汚れ等があったりする場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。

【4】 机上には受験票･筆記用具及び時計等監督者から指示された物以外は置いてはいけません。

【5】 **監督者の指示があるまで退室はできません。**

【6】 解答用紙の**解答科目欄の「基礎学力テスト」にマークしなさい。**マークされていなかったり、複数の科目にマークされていたりする場合は、採点できないことがあります。

【7】 解答用紙については、特に次の点に留意しなさい。

① **マークには必ず黒鉛筆（HB）を使用しなさい。**

② 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、［ウ］と表示のある問いに対して ③ と解答する場合は、次の（例）のように**解答欄ウ**の ③ に**マーク**しなさい。

（例）

	解　答　欄									
ウ	⓪	①	②	❸	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

③ 折り曲げたり、汚したりしてはいけません。

④ 解答用紙には、答案に関係のない語句・記号を書いたり、落書きをしたりしてはいけません。（問題冊子には書き込んでもよい。）

⑤ 誤ってマークした場合は、消しゴムできれいに消して書き直しなさい。

【8】 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第１問

A　次の【a】～【e】で、下線部のカタカナを漢字に改めたときに正しいものを、それぞれ①～④の中から１つずつ選べ。解答欄は【a】は［ア］、【b】は［イ］、【c】は［ウ］、【d】は［エ］、【e】は［オ］

【a】　ただ今登下校の時間帯につき、車両は<u>シンニュウ</u>できません。

①　浸入　　②　新入　　③　侵入　　④　進入

【b】　新たな挑戦だ。<u>ジキ</u>を失しないように気をつけておこう。

①　時期　　②　時季　　③　時機　　④　時気

【c】　<u>イギ</u>を正して登壇する。

①　威儀　　②　意義　　③　異議　　④　異義

【d】　文筆家に雑誌への<u>キコウ</u>を依頼した。

①　寄稿　　②　起工　　③　紀行　　④　気候

【e】　相手の<u>カンシン</u>を買おうと努めた。

①　感心　　②　歓心　　③　寒心　　④　関心

B　次の【a】・【b】における下線部について、意味の上で反対の関係にあるものを、それぞれ ① ～ ④ の中から１つずつ選べ。

解答欄は、【a】は カ 、【b】は キ

【a】 その雑誌は一般の書店で買えるよ。

① 公共

② 著名

③ 少数

④ 特殊

【b】 義務は果たさねばならない。

① 自由

② 権利

③ 平等

④ 解放

C　次の【a】～【c】の□に正しい漢字を１つずつ入れて、それぞれの四字熟語を完成させよ。漢字はそれぞれ ① ～ ④ の中から選べ。

解答欄は、【a】は ク 、【b】は ケ 、【c】は コ

【a】 大言□語

① 双　② 壮　③ 想　④ 操

【b】□天動地

① 恐　② 驚　③ 鏡　④ 興

【c】 換骨奪□

① 還　② 肉　③ 胎　④ 取

D　次の【a】～【d】の文には誤りがある。その誤りについての説明として最も適切なものを、それぞれ①～④の中から１つずつ選べ。

解答欄は、【a】は［サ］、【b】は［シ］、【c】は［ス］、【d】は［セ］

【a】　あの八百屋では新鮮な野菜が売っているので、毎日買いに行くようにしている。

①　場所を表す格助詞の後に続けて助詞「は」を使用しているので、「で」か「は」のどちらか一方を削除するとよい。

②　動作の対象に対して使用する格助詞が誤っているので、「が」を別の格助詞に置き換えるとよい。

③　「行くようにしている」は進行中の動作を表す形なので、「毎日」に対応する形に修正するとよい。

④　動作の主体が誰かを明示する必要があるので、「毎日」の前に「私は」を補うとよい。

【b】　朝から強い雨が降っているのに、今日の野球の試合は中止されることになった。

①　文の前半と後半の接続が誤っているので、接続助詞「のに」を順接に変更するとよい。

②　「朝から」「今日の」のように時間を表す語を２種類使っているので、「朝から」を削除して時間を明確にするとよい。

③　「今日の」と「野球の」で格助詞の「の」が連続して用いられているので、一方を削除するとよい。

④　受身表現の主語「試合」に対して助詞「は」を使用しているので、主語を表す別の格助詞に変更するとよい。

【c】 ずっと野菜が苦手だったけれど、急に食べれるようになった。

① 接続表現が誤っているので、「けれど」を適切な接続助詞に変更して修正するとよい。

② 可能を意味する「食べれる」が誤っているので、「れる」を「られる」に修正するとよい。

③ 「ずっと」という副詞は口語的でふさわしくないので、適切な副詞に修正するとよい。

④ 時制表現の使い方が誤っているので、過去の助動詞を削除して「だった」を「だ」に修正するとよい。

【d】 市長が丁寧に説明していただいたので、私たちは政策の意図をよく理解できた。

① 名詞「説明」を修飾する「丁寧に」の活用が誤っているので、連体形に修正するとよい。

② 「政策」という無生物名詞に「の」という所有を表す助詞を使用しているので、削除するとよい。

③ 時制の表現が誤っているので、「理解できた」を未来を表すことのできる形に修正するとよい。

④ 「市長」と「私たち」のやりもらいの関係から考えて不適切な「いただいた」を適切な表現に修正するとよい。

E　次の空欄に入る適切な故事成語を、それぞれ ① ～ ⑧ の中から１つずつ選べ。解答欄は、【a】は ソ 、【b】は タ

【a】 お笑い芸人志望の彼は、誰かが何か言うたびに（　　）突っ込みを入れて、かえって場をしらけさせてしまうことがある。

【b】 昨日までの堅調な推移とは打って変わって株価が大暴落、（　　）としか言いようがない。

① 歯牙にかけず　② 敗軍の将は兵を語らず
③ 間髪を入れず　④ 株を守る　⑤ 矛盾
⑥ 他山の石　⑦ 青天の霹靂（へきれき）　⑧ 髀肉（ひにく）の嘆

F　次の意味を表す言葉として最も適切なものを、それぞれ ① ～ ⑥ の中から１つずつ選べ。解答欄は、【a】は チ 、【b】は ツ

【a】 要求や命令への服従。特に、情報公開、公正取引、環境対策など高い企業倫理を果たすため、法令や規則を遵守しようとすること。

【b】 混沌（こんとん）として無秩序な状態。対義語はコスモス。

① モラルハザード　② カオス　③ シンクタンク
④ アウトソーシング　⑤ コンプライアンス　⑥ クオリティ

G　次の ① ～ ⑧ の中で、用字や用語、表記等、表現上の誤りを含むものを3つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、 テ ～ ナ

① ご依頼の件、たしかに承りました。

② 君のその意見はどういう根拠にもとずくのか。

③ 彼の度重なるわがままには、とうとう堪忍袋の緒が切れたよ。

④ お口に合わないかもしれませんが、よろしかったらいただいてください。

⑤ 町外れの廃屋は、こぢんまりとしたたたずまいのカフェに変わっていた。

⑥ 懐かしい故郷の駅に降り立ったのは冬の凍える日のことだった。

⑦ 流れの早い川のほとりに立って、来し方行く末に思いをめぐらせた。

⑧ 肥料を施すには、種類や量、タイミングを適切に判断する必要がある。

第２問

A　次の会話文を完成させるために、空欄 ア ～ オ に入れる最も適切なものを、それぞれ ① ～ ④ の中から１つずつ選べ。解答欄は、問１は ア 、問２は イ 、問３は ウ 、問４は エ 、問５は オ

問１　A:　Excuse me. ア

B:　Which ones?

A:　The black ones.

B:　They're forty dollars.

① Where did you buy that belt?

② How much are those pants?

③ Is this hat expensive?

④ How many items do you have for sale?

問２　A:　Jane, you got a call from Mr. Peterson while you were at lunch.

B: イ

A:　Yes, I put it on your desk, in the usual place.

① Did he answer the phone?

② Is he available right now?

③ OK, did you take a message?

④ Why did she call?

問 3　A:　Where does the three o'clock train leave from?

B:　[ウ]

A:　I see.　How can I get there?

① Platform four.

② It leaves for Boston.

③ It left ten minutes ago.

④ Sorry, I don't work here.

問 4　A:　Why don't we go see a movie tonight?

B:　[エ]

A:　OK.　I'll meet you at the theater at 7:30.

① Sure!　But I have to work, so I can't go until 9:00.

② To be honest, I don't enjoy movies at all.

③ Sounds great!　What movie do you have in mind?

④ Yes!　And let's have dinner together after that.

問 5　A:　Did you finish your homework, Mary?

B:　[オ]

A:　Really?　Then show it to me.　I want to be sure you did it correctly.

① Actually, Susan did it for me.

② There wasn't any today.

③ Yeah, of course, mom.　It's all done.

④ No, I've decided not to do it.

B　次の各日本語文の意味を表す英文を完成させるために、それぞれ後の①～④の語句を空所に補ったとき、［カ］～［ク］に入る最も適当なものを１つずつ選べ。解答欄は、問１は［カ］、問２は［キ］、問３は［ク］

問１　あの俳優が日本に来月来ると聞いてワクワクしています。

We're _____ _____ _____［カ］ that the actor is _____ to Japan next month.

①　to　　②　coming　　③　excited　　④　hear

問２　昨夜は曇り空で、私たちは天の川を見られなかった。

Cloudy skies _____ _____ _____［キ］ _____ the Milky Way last night.

①　from　　②　us　　③　seeing　　④　prevented

問３　それは、これまでの中でもっとも忘れがたい経験の一つです。

That's one of the most _____ _____ _____［ク］ ever _____.

①　experiences　　②　I've　　③　had　　④　unforgettable

C　次の英文を読んで、後の問いに答えよ。

I have lived in Hiroshima now for about 13 years. I really, really like the city's rivers. To be honest, I'm not sure just how many rivers there are in Hiroshima, but sometimes it seems that, no matter where I go, I see a river on my way there!

Being near a river helps me to relax and to feel close to nature, so I try to spend as much time as I can on the *riverbank that is in front of the building where I live. I often take walks there, sit and talk with my wife there, read books there, and do stretching exercises there. Actually, (X)I spend so much time on that riverbank that I sometimes think of it as my own!

One of the more interesting aspects of spending a lot of time near a river is that, occasionally, you can find things floating in the water. For instance, in the past few years, some of the things that I have found include: a soccer ball, a DVD, a child's toy, and even several unopened containers of instant noodles. On one occasion, I "found" something in the river that I wished I hadn't: myself! I was stretching as far as I could to reach an object that was floating (Y)by, and…*splash! Before I knew it, I was in the river!

(Z)Fortunately, the water was not deep enough for me to be in danger. It was, however, very cold! As quickly as I could, I got [ケ] the river and back onto the bank. Then I began walking home. At first, I felt quite embarrassed by [コ] had happened. By the time that I reached my front door, though, I could only see my unexpected river experience as being *hilariously funny!

（注）* riverbank – 土手、川岸。bankも同じ。

* splash – バシャーン（水の跳ねる音）

* hilariously – 大笑いするほど

問１　空欄 ケ ・ コ に入る最も適切な語句を、それぞれ ① ～ ④ の中から１つずつ選べ。解答欄は、 ケ ・ コ

ケ	①	into	②	over	③	up to	④	out of
コ	①	what	②	where	③	how	④	which

問２　下線部(X)に最も意味が近いものはどれか、次の ① ～ ④ の中から１つ選べ。解答欄は、 サ

① 私はその土手をいつか自分のものにしようと、たっぷり時間をかけて考えています。

② 自分自身について考えるのと同じくらい、土手で長く過ごす時もあります。

③ あの土手で過ごす時間がかなり長く、そこを自分のものと考えることもあるほどです。

④ 一人で考え事をするために、あの土手でたくさん時間を過ごすことがあります。

問３　by について、下線部(Y)の by と同じ意味で使われているものを、次の ① ～ ④ の中から１つ選べ。解答欄は、 シ

① You must finish the report <u>by</u> Friday.

② We were all shocked <u>by</u> the news.

③ Time goes <u>by</u> so quickly, doesn't it?

④ Prices are going up little <u>by</u> little.

問４　下線部(Z)の Fortunately と意味が同じものを、次の ① ～ ④ の中から１つ選べ。解答欄は、 ス

① Surprisingly
② Accidentally
③ Suddenly
④ Luckily

問５　英文の内容と一致しているものはどれか、次の ① ～ ⑥ の中から２つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、 セ ・ ソ

① 筆者は、広島市内を移動する時は必ず川沿いを通るようにしている。
② 筆者がのんびり過ごすお気に入りの川岸は、自宅付近にある。
③ 散歩や会話、読書、運動を川辺で行うよう、筆者は読者にすすめている。
④ 土手に行くたびに筆者は、未開封の食品など雑多なものを川で発見する。
⑤ 浮かんでいるものを取ろうとして、筆者は川に落ちた。
⑥ 川に落ちてしまった途端、筆者は笑いが止まらなくなった。

第3問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

数年前、森林関係の研究所に勤務している研究員のところに、ある村の村長が訪ねてきた。その村の森には、それほど多くはないけれど、いまでは希少価値になった天然のヒノキが大きく育っているのだという。そのヒノキを一番高く売るには、どうするのがよいのかが村長の問いだった。研究員はいろいろ調べたうえで、後日その方法を教えた。それは玄関の表札にして売るのが有利だというものだった。

ところがそう話したら、村長はきわめて不愉快そうな顔をした。樹齢二百年をこえた大木が、柱になった後も堂々と建物を支えつづけ、生きつづける姿を思い描いていた村長には、それが細切れにされることなど、容認できることではなかったのである。商品価値を高めることが、木を侮辱することであってはならないと思った。

「それがあの頃一番高く売る方法だったのに」

研究員は私にその話をしてから、「しかし村長の気持ちもわかるし」と言って楽しそうに笑った。自分の提案が拒否されたことは、彼にとってもX出来事だったのである。

木が本来もっている価値を生かすことと、商品として木を高く売ることは、必ずしも一致しない。いまでは天然のスギの銘木は、紙のような薄い板にされ合板に張りつけられて、天井板などになることが多い。それが天然スギを一番高く売る方法でもあるし、そのことによって天然スギのもっている木目を比較的安い価格で、誰もが楽しめるようになったと評価する意見もある。しかし、それでもなお私は、山奥の路上で合板にされるために乾かされている天然スギをみかけると、私は村長と同じような気持ちをいだく。

今日では山の木が建築物に変わるまでの間には、次元の異なる二つの過程が重なりあっているのであろう。それは使用価値と商品価値の違いによって生ずるズレ、といってもよいのだけれど、木自体がもっている価値を生かすか、商品としての木の価値を優先するかをめぐって、木にたずさわる者たちもまた動揺してきた。そしてそのことは、ときに力強く木の育った美しい森

と経営効率を優先させた森の違いとなってあらわれ、製材や建築の過程では、職人的な仕事と商品をつくるだけの労働の違いとなってくる。

たとえば製材工場を訪ねても、スギやヒノキなどの国産材をひく工場と、輸入材をひく工場とでは、雰囲気がずいぶん違う。台の上に置かれた丸太が電動ノコギリのなかに引き込まれ、角材に変わっていく工程はどちらも同じなのに、国産材の工場には、職人の仕事場のような雰囲気が漂っている。ところが輸入材専門の工場に行くと、流れ作業のなかから規格品の商品がつくられていく「近代工場」のイメージに変わる。

国産材は、どこにノコギリの刃をあてるかで木目の出方も変わり、木の価値も商品価値も変わってくるから、木目の出具合を読む職人の経験やカン、コツが工場を支えている。ところが輸入材は木目も一定のものが多く、しかも大壁工法（注）などの柱のない家の部材になることが多いから、部品をつくる自動化工場のようである。最近では労働力不足に対応して、コンピュータ製材が関心を高めているけれど、それも職人の腕を必要としなくなった輸入材専門工場での話にすぎない。国産材の工場はいまも職人の世界である。

その職人は板や角材などの商品をつくる。しかしその商品をつくる過程は、木が本来もっている性質を生かしていこうとする職人仕事の過程でもあった。

山の木を単なる商品にしてしまわないためには、職人的な腕が生きていなければいけない。確かに山の木は、林業家から製材業者へ、工務店から消費者へと、商品として流れていく。ところがこの流れのなかに、美しく、大きく森を育てていこうとする村人の腕や、製材職人の腕、木の特性を生かしていこうとする大工の腕などが健在である間は、木と人間は一体化して、木の文化をもつくりつづけることができる。

木の文化は、天然のヒノキが細切れの板にされるのをかわいそうだと感じる、あの村長の気持ちに支えられてきた。そしてその気持ちを仕事のなかで実現させる職人たちの腕とともにあったのである。

（内山節（うちやまたかし）『内山節著作集10　森にかよう道』による）

注　大壁工法…柱などを壁の中に埋め込んで見えないようにする工法。

問1　空欄 X に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、 ア

① 不快な　② 意外な　③ 愉快な　④ 不当な　⑤ 希少な

問2　文章の内容と合致するものはどれか、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、 イ

① 天然のヒノキを玄関の表札にして売ることは商品価値を高めることである一方、木の本来もっている価値を損ない、木を侮辱することであった。木の価値に見合った方法で加工を行い、かつ比較的安い価格で最終消費者に提供することで、使用価値と商品価値の不一致をなくすことができる。

② 木自体がもっている価値を生かすことと、商品としての木を高く売ることとは必ずしも一致しない。山の木が消費者に流れるまでの過程に、美しく大きく森を育てていこうとする村人の腕や、製材職人の腕、木の特性を生かそうとする大工の腕が健在な間は、木と人間が一体化して木の文化をつくりつづけることができる。

③ 最近では労働力不足に対応するために、コンピュータ製材が関心を高めているが、その製材技術は木自体の価値を生かそうとする職人の腕に比べて劣っている。山の木を単なる商品にしてしまわないためには職人的な腕が生きていなければならないので、コンピュータ製材の技術を職人の水準まで高めれば木の文化を維持できる。

④　国産材はノコギリの刃の当て方によって木目の出方が変わり、木の価値も商品価値も変わる。そのため、木目の出具合を読む職人の経験が必要である。一方輸入材専門の工場では流れ作業で規格品がつくられていく「近代工場」のような様相である。輸入材も国産材のように職人たちの腕で加工すれば、木のもつ価値が生かされるだろう。

⑤　大きく育ったヒノキを表札に加工することは木の使用価値を優先させた考え方であるので、木の本来もっている価値を生かそうとする村長には受け入れられなかった。村人は、木と人間が共生できる森林を目指して大木が育つ森を作ることで、木の価値を生かそうとする態度をはぐくみ次世代につながる林業を模索してきた。

第4問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一丸となって共に演奏しているかに見えるオーケストラプレイヤーたちは、実際にはひとり一人が孤独だ。おかれたポジションの責任を果たすことができるのは自分のほかにはいないからだ。「みんなで渡れば怖くない」とばかりに、主体性を放棄し互いに寄りかかろうとする奏者に、オーケストラの席は用意されていない。

意外に思われるかもしれないが、これは tutti（トゥッティ）を弾く弦楽器奏者たちも変わらない。1st ヴァイオリン（注1）なら1st ヴァイオリン、ヴィオラならヴィオラ……と皆が同じ楽譜を弾くのが tutti ではある。ときに一〇名を超える奏者がいっせいに同じ音をだすのだから、責任が分散されてもよさそうなものだ。でもそうはならない。一列目には一列目の、二列目には二列目の、三列目には三列目の役割がある。しかも、列の外側に座るのか、内側に座るのかによっても果たすべき責任が違う。

もちろんすべてのメンバーは、指揮者に統率されて曲の完成を目指す。コンサートマスター（注2）を核に結束もしよう。その意味では、根っこのところで、一つにはつながっている。でも、それぞれの奏者は幹から伸びた枝であり、葉っぱだ。一つとして同じ色の葉っぱもなければ、同じ形の枝もないことは自然の樹木を観察するまでもない。そこでは各々が別々の役割を果たすことを期待されている。だからどれほどメンバーの数が増えても、奏者は仲間を頼ることのできない緊張感にさらされている。

X 上司もいなければ部下もいない。きわめてフラットな楽器同士の関係でオーケストラは成り立つ。一見上司のようにふるまう指揮者も、本番ではなにも手をくだすことはできない。もし彼らが「タクトを振りおろして、誰も音を出してくれなかったら……と思えば、それは恐怖でしょうね」と語るのは『証言・フルトヴェングラーかカラヤンか』（注3）の著者川口（かわぐち）マーン恵美（えみ）氏。同書には実際「ソロの誰かに何かが起こっても、私はどうすることもできない」と恐怖と闘うカラヤンのことばが紹介されている。つまりどのような音を出すかは、各奏者に委ねられるということだ。いったんその席に座ったも

のは断固として、その人間の責任で音楽を作らねばならない。それがオーケストラの掟だ。皆で一つの音楽を奏でながらも、奏者は孤独を生きる。

だが同時に、孤独を引き受けながらもなお、その音楽家たちが調和を希求する、というパラドクスにおいてオーケストラの持つ本質は浮かび上がる。それこそがまさにオーケストラの存在価値を裏づけるものだ。ひとびとが夢見、未だ叶うことのない社会のあるべき姿がそこに立ち現れるからだ。ヨーロッパ近代という限られた地域と限られた時代に誕生したオーケストラが、地球規模で広まり、世界の各地に定着した秘密もまたそこにある。

オーケストラのあの（Ｉ）響きは、孤独な魂が、なお他者とひとつになることを試みる、という葛藤のなかからしか生まれ得ないものだ。

どんなに耳を澄ましても聞こえようもない小さな音にまで、オーケストラの奏者がこだわりを見せるのも、その調和を願えばこそ、だ。わずかな音の差が全体のパフォーマンスに影響することを知っている者の責任感がそうさせる。［A］現場で音を発するときの奏者は、全員が皆「自分の奏でる音は正しい音である」ことを信じている。その確信がなければ、怖くてオケ（注４）のなかで音を出すことなど不可能だ。［B］それは、まわりとの調和をはかることを要求される音でもある。自分とは違う他者の音に寄り添うことを前提に、自分の信じる正しい音を作るという芸当が至難の業であることは容易に想像がつこう。［C］、それをしないことにはオーケストラメンバーとしての使命を果たすことはできない。

［D］、もう一方の真実は、オケで正しい音を奏することは結果的には誰にもできていない、という事実でもある。それぞれの奏者の奏でる音はそれぞれに微妙にずれているからだ。ひとり一人の奏者は音楽家として美意識が異なり、価値観が異なるのだから当然ともいえる。音楽家としての訓練を受けてきたからには、そこには必ず奏者の解釈が加わる。こころひとつに音楽を奏でることを目指しているにもかかわらず、不一致の溝を埋めるにはあまりに芸術家としての自我が確立しているのだ。いかにまわりと合わせようとしても、埋めようのないずれが生じてしまうのもいたしかたなかろう。

アンサンブルに集中し、相互に音を聞き合うほどに、それは露わになる。発音のタイミングや音の立ち上がり、立ち下がり、音のつながりや切り方、強弱、ヴィブラート（注5）の周期や深さまで、すべての音のふるまいについて、鋭敏な耳はそのちがいを感知する。調和を願う心が、かえって奏者に疎外感をもたらす。オーケストラ奏者は自分の思い描く理想の音と、他人の思い描く理想の音のあいだに挟まれて、いつもストレスを抱えている。互いが互いに対してちょっと迷惑なのだ。

ところが面白いことに、コンピュータを使い、音程はもとより発音のタイミング、音の立ち上がりなどすべての要素をぴたりと一致させてオーケストラ音楽をシミュレートすると……、これほど味気のない音もあるまいという音楽が聞こえてくるらしい。ずれを排除し、すべてが完璧に一致する音楽は（Ⅱ）響きだ、という。

そこで、さまざまな音楽的要素を微妙にずらしてみる。これが、結構それらしく聞こえる、というではないか。本物のオーケストラの音を録音したかのようにさえ聞こえてくる瞬間もあるようだ。

こうした実験の結果から考えられるのは、じつはひとを包み込むような豊かで（Ⅲ）オーケストラのサウンドは、それぞれの奏者の奏でる音の一致しなさから生まれてくるのではないかということだ。皆が一致することよりも、一致しないところに充実したオーケストラサウンドの魅力は隠されていると想像するほかはない。そう考えると、ますますオーケストラは社会のあるべき姿を映しているようではないか。

もしも成員の全員が一分のすきもなく、与えられた役目に同じことをする社会が実現したとしたら、それはとりもなおさず、あなたがあなたである必要はなく、私が私である必要のない社会を意味しよう。誰もが一つの課題に対し同じことを言い、同じ行動をとるのだから個人の顔の必要性はなくなる。そこにいるのが特定の誰かである必然性はない。誰かの代わりが見つからなくて困る、というようなことは原理的に起こりえない。誰がどのポジションにいようとも、いつでも替えがきくからだ。そんな非人間的な社会で、ひとがいきいきと、各々の役割を果たせるとは思えない。

手触りのやさしい社会は、個々人の価値観が多少ずれていても、正否の基準が人によって違っていても、それを鷹揚（おうよう）に受け入れる共同体ではないか。端的にいうと、いつでも互いに迷惑をかけあえる集団であるはずだ。であればこそ、顔が見える。

だとすると、各奏者の発する音が微妙にずれるオーケストラは、全員が全員に対してずれているという事実ゆえに、一人としてその奏者に代わる者はいないことになる。互いに歩み寄ろうとしても埋めることのできない溝が、かけがえのない顔の象徴でもあったわけだ。

どうやら、ひとびとを魅了してやまないオーケストラの響きは、音楽観が違い、美意識が違い、正否の基準が違う奏者たちの多様な価値観から生み出されるものであったようだ。個性ある音楽家ならではのずれが一つずつ重なることによって、オーケストラは初めて魅力ある音を奏でることができる。「いったんその席に座ったものは断固として、その人間の責任で音楽を作らねばならない」という言は、じつはオーケストラからの「あなたの代わりになる奏者はどこにもいない」という呼び声ではなかったか。

「ほかでもないあなたを必要としている」という音楽からの招きに応えて、奏者たちは、作品のなかに深くに入り込むことができる。たとえそれが、孤独な作業であったとしても、だ。

（大嶋義実（おおしまよしみ）『演奏家が語る音楽の哲学』による。本文中の傍点は原文のまま）

注1　1st ヴァイオリン…ファーストヴァイオリン。オーケストラのヴァイオリン群の中で、主旋律を受け持つ群。

注2　コンサートマスター…1st ヴァイオリンの首席奏者。オーケストラの演奏を統括する。

注3　『証言・フルトヴェングラーかカラヤンか』…書名にある両名はともに二〇世紀に活躍した指揮者。

注4　オケ…オーケストラの略。

注5　ヴィブラート…音程などをわずかに揺らす演奏技法。

問1　空欄 A ～ D に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、ア

① A そのため　B けれども　C ところが　D だから
② A だから　B しかも　C でも　D ただ
③ A しかし　B もっとも　C だから　D さらに
④ A ところで　B そのため　C しかし　D そこで
⑤ A そして　B ましてや　C そもそも　D 加えて

問2　空欄（Ⅰ）～（Ⅲ）に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、イ

a ひとまとまりの　b 狐（きつね）につままれたような
c 豊饒（ほうじょう）な　d 石橋を叩（たた）いて渡るような
e 緊張した　f 砂をかむような
g 孤独な　h 温かな　i 人々が夢見た

① Ⅰ a　Ⅱ g　Ⅲ c
② Ⅰ e　Ⅱ b　Ⅲ a
③ Ⅰ c　Ⅱ f　Ⅲ h
④ Ⅰ i　Ⅱ d　Ⅲ e

問3　傍線部X「上司もいなければ部下もいない。きわめてフラットな楽器同士の関係でオーケストラは成り立つ」とあるが、この場合、それぞれの奏者が行っていることとして適切なものを、次の①～⑥の中から二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、ウ・エ

① 周りと調和をはかって責任を分散させる
② 他の奏者を優先して互いに寄りかかろうとする
③ どんな音を出すか奏者自身の責任で判断し、音楽を作る
④ 同じ責任を共有しているオーケストラの仲間を頼る
⑤ 役割に応じて各奏者が別々の責任を果たす
⑥ 全員で同じ音を出して一丸となって演奏する

問4　傍線部Y「ヨーロッパ近代という限られた地域と限られた時代に誕生したオーケストラが、地球規模で広まり、世界の各地に定着した秘密もまたそこにある」とあるが、このようにいえるのはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、オ

① 自身の責任を果たしながら調和を求めるオーケストラには、ひとびとが理想とする社会の姿を見ることができるから。
② 孤独と調和を両立させるために構成員相互の距離を保つという考え方は、世界各国のひとびとももっているから。
③ 人と人との調和を目指すヨーロッパ近代のオーケストラを、全世界のオーケストラが模範としてきたから。
④ 人と人との結びつきが薄れて孤独になりつつあることは、どの時代や地域でも問題になっているから。
⑤ 音楽で国や時代を乗り越えようとすることを、ヨーロッパ近代だけではなく、全世界のひとびとが目指しているから。

問5　傍線部Z「あなたの代わりになる奏者はどこにもいない」とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、カ

① 奏者相互の価値観の違いを意識し、それを目立たせながら演奏することで、個々人の顔がはっきりと見えるようになるということ。
② 互いに譲り合って音楽を作ることで奏者は孤独から解放され、オーケストラの中に個々の奏者の居場所ができるということ。
③ 互いの欠点を補い合うことで曲の完成度を高めるため、長所や短所が違う奏者が一人でも多く必要だということ。
④ 魅力的なオーケストラの音は価値観の違いから生まれるずれが重なってできるもので、各奏者がかけがえのない存在だということ。
⑤ 一分のすきもない演奏を目指すためにも、独自の個性的な解釈をする奏者の多様な意見が求められているということ。

問6　筆者の説明方法の特徴について説明したものとして最も適切なものはどれか、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、キ

① 「オーケストラ」と「手触りのやさしい社会」という、一見共通性のないものを対比することで、社会の多様さを示している。
② 科学的な実験による実証をふまえて理論を構築し、抽象的な議論にとどまらないようにしている。
③ 「オーケストラ」の奏者が置かれた逆説的な状況を説明する中で、類比的に社会のあるべき姿を示している。
④ 「ではないか」のような読者に語りかける表現を多用することで、読者の理解を促すとともに、心に訴えかけるように工夫している。
⑤ 「オーケストラ」と「奏者」、「共同体」と「個々人」のように、集団と個人を対照的に取り上げ、両者の違いを述べている。

第5問

次は、大学を出て、北見（きたみ）眼科医院で視能訓練士（注1）として働き始めた「僕」（野宮（のみや））が出会った患者との話である。小学校一年生のとも子ちゃんの検査を担当した「僕」だが、うまくいかない。そこで、広瀬（ひろせ）先輩と交替した。次はこれに続く場面である。これを読み、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

（砥上裕將（とがみひろまさ）『7・5グラムの奇跡』による）

注1　視能訓練士…眼科医療に関わる専門的な機器を使い、医師の指示のもと検査や視機能に関する訓練を担当する専門技師。

注2　GP…視野を測る検査。ゴールドマン視野計（Goldmann Perimeter）を用いて片目ずつ、光が見える範囲を測定する。視野は、盲目の海にぽつんと一つ浮かぶ孤島に例えられ、その島の輪郭＝視野を測定するもの。しかし「僕」はとも子ちゃんの視野を測定できなかった。

注3　オートレフ…ここでは、光を瞳孔から網膜に当て、反射してくる光から眼（め）の屈折力を測定したり、また、角膜の表面に光を当てて、角膜の曲率半径を測定したりする機器をいう。

注4　視標…視力検査で用いる目印。視標を判別した被験者の反応から、見えているかどうかを測定する。

問1　文章中の波線部①～⑤の中に一つだけ他と異なるものがある。それはどれか一つ選べ。解答欄は、ア

問2　傍線部A「彼女の瞳の中の幻」とはどういうものか。最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。解答欄は、イ

① 肉眼では見えないが検査で見えるようにできる、とも子ちゃんの瞳の中にある可視機能のある部分の形のこと。

② 丁寧に話を聞きながら計測することで見えるような気がしてきた、幼いとも子ちゃんの心の中にある不満の形。

③ 見えたところを用紙に記録し線で結んで出来た図形のことで、目に見えないとも子ちゃんの視野を可視化したもの。

④ 「僕」にはどうしても見つけられなかったのに広瀬先輩は見つけられた、とも子ちゃんの黒目の中の模様。

問3 傍線部B「答え」とあるが、どういう「問い」に対する「答え」か。「問い」として最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、ウ

① とも子ちゃんは、なぜ「心因性視覚障害」になってしまったのだろうか。

② 広瀬先輩はどうして、とも子ちゃんの検査を「僕」にさせてくれないのか。

③ とも子ちゃんが「心因性視覚障害」だという広瀬先輩の見方は正しいのか。

④ 広瀬先輩は、どうして検査前から「心因性視覚障害」だと気付けたのか。

問4 傍線部C「僕は目を見開いた」は、「僕」のどういう状態を表現しているか。最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、エ

① しっかり見ようとする様子。

② 何かに気づいた様子。

③ 驚きあきれた様子。

④ 自覚を新たにした様子。

問5　傍線部D「少し嬉しそうに」とあるが、どうしてか。最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。解答欄は、オ

① 野宮が患者とのコミュニケーションの中でよく見て得た、ネームプレートを読めたことやメガネに関心があるという情報が、検査のヒントになるから。

② 野宮が、オートレフの結果がまばらな数値を示していたことを正直に報告し、真剣に自分から学ぼうという初々しい姿勢を見せたから。

③ 心因性視覚障害だと予測もできず、きちんと検査もできなかった野宮に対して、先輩として圧倒的な実力差を見せることができたから。

④ ちゃんと患者を観察して気づいたメガネやネームプレートのことを、検査に結びつけて考えられない野宮が、新米だった頃の自分と重なったから。

問6　傍線部E「僕は自分の胸が小さく高鳴っていることに気がついた」ときの「僕」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。解答欄は、カ

① 頑張って技量を身につけ本物の視能訓練士になれば、難しい検査も可能になり、より正確なデータを医師に手渡すことができるというわくわくした気持ち。

② 無理かと思った検査が広瀬先輩のおかげでちゃんと出来たうえに、視力検査までできたことで、患者に迷惑をかけずに済んだとほっとする気持ち。

③ 難しくて自分が手こずった検査がやっと終わり、その理由も広瀬先輩が正しいかどうかも、医師の診断によってついに明らかになると期待する気持ち。

④ 非常に難しい検査だったが広瀬先輩に褒められて少し自信がつき、医師にも堂々と結果を渡せることから生まれた達成感による弾む気持ち。

問7　傍線部F「北見先生」はどんな医師だといえるか。当てはまらないものを、①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、キ

① 粘り強く話を聞き、わかりやすく説明しようとする医師。
② 子供の目線で考え、柔軟な対応ができる医師。
③ 温厚で、思いやりをもって人に接する医師。
④ 使命感が強く、治療のためなら何でもする医師。
⑤ スタッフの仕事に信頼を置いて判断する医師。

問8　傍線部G「お母さんと、とも子ちゃんの目が合ったとき、ついにお母さんの瞳から涙が零れた」とあるが、どうしてか。最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ク

① とも子ちゃんが見えなくなった原因が、間接的ではあっても自分にあると知って、責任を感じて申し訳なく思ったから。
② 「お母さん」が好きだというとも子ちゃんの気持ちを実感するとともに、回復を信じることができて安心したから。
③ それまで我が子を見ることなく病気ばかりを気にしてきたのが、それではいけないと気づかされて情けなくなったから。
④ 目そのものに器質的な問題があるわけでないから治療の必要はないと言われて、もう病院通いをさせなくてもよいとほっとしたから。

〔次ページへ続く〕

問9　文章中の空欄（X）にあてはまる最も適切な言葉はどれか。①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、ケ

① 自分勝手で感情の起伏が激しい
② 疲れ切って人の言葉が耳に届かない
③ 一生懸命なあまり他人を許すことができない
④ 強気を装って頑張りすぎている
⑤ 子供に振り回されてうんざりしている

〔基礎学力テストの問題は以上です。〕